

Japanese Utility Model Publication No. Sho 59-10380

Publication Date: April 2, 1984

Japanese Utility Model Application No. Sho 54-22743

Application Date: February 23, 1979

Applicant: Suzuki Motor corp.

[Claim]

A filter holding device for air cleaner wherein a cylindrical holder connected to an outlet and having slits in its peripheral surface is provided in the inside of a cleaner case as one body with said cleaner case, an inner plate is provided on the inside of a cleaner lid, a cylindrical filter is fitted over said holder, and both ends of said filter are fitted respectively in an annular groove provided in an outer periphery of a base end of said holder and opened to the tip end side in the axial direction of said holder and an annular groove provided in said inner plate, whereby both ends of said filter are clampedly held.

⑫ 実用新案公報 (Y 2) 昭59-10380

⑮ Int. Cl.

識別記号

序内整理番号

⑯ 公告 昭和59年(1984) 4月2日

F 02 M 35/024

6657-3G

(全2頁)



⑬ エヤクリーナのフィルタ保持装置

⑰ 実 願 昭54-22743

⑱ 出 願 昭54(1979) 2月23日

⑲ 公 開 昭55-123660

⑳ 昭55(1980) 9月2日

㉑ 考 案 者 川合 豊彦

浜松市佐鳴台 3-20-401

㉒ 出 願 人 鈴木自動車工業株式会社

静岡県浜名郡可美村高塚 300 番地 10

㉓ 代 理 人 弁理士 猪股 清 外 1 名

㉔ 参考文献

実 公 昭39-32356 (J P, Y1)

実 公 昭40-7269 (J P, Y1)

㉕ 実用新案登録請求の範囲

クリーナ外筐の内方に、出口に通なり局面にスリットを有する円筒状の保持筒を一体的に形成するとともにクリーナ蓋体の内側に内板を設け、円筒状のフィルタを保持筒に外嵌し、フィルタの両端を、保持筒の基端外周に形成され保持筒の軸線方向先端側に開口する環状溝および内板に形成された環状溝にそれぞれ嵌挿して、上記フィルタの両端を挟持して保持するようにしたことを特徴とするエヤクリーナのフィルタ保持装置。

考案の詳細な説明

この考案は、小型エンジン等に用いるエヤクリーナのフィルタ保持装置の改良に関する。

一般に、エヤクリーナに筒状のフィルタを用いる場合には、筒状のフィルタの両端に添板を接着剤等を用いて添着し、一方の添板をクリーナ外筐内の所定位置に当て、他方の添板をビス止めする等によつて固定している。フィルタは、交換、又は清掃を要し、添板を設けるのでは、高価につき、製造コストも高い。

この考案は、かかる点に鑑み改善したもので、以下図面に示す本考案の実施例について説明す

る。

クリーナ外筐1は、合成樹脂で成形し、出口2に連なる円筒状の保持筒3を一体に設けるとともに、その基端外周部に保持筒の軸線方向先端側に開口する環状溝1aを一体的に形成する。保持筒3には、両端を残して多数のスリット4を設ける。クリーナ外筐1の外端には、入口5及び吸入通路6を設けたクリーナ蓋体7を被着する。クリーナ蓋体7も合成樹脂で成形するもので、内側に内板8を設けてビス9で固定する。内板8の中央は、保持筒3の先端に嵌合する形状にしてあり、さらにその外周部にはクリーナ外筐1の環状溝1aと対向する環状溝8aが形成してある。そこで、上記保持筒3に円筒状でスポンジ等の多孔体で作つたフィルタ10を外嵌し、その一端を環状溝1aに嵌合せしめた後、クリーナ蓋体7をクリーナ外筐1に被着し、フィルタ10の他端を内板8の環状溝8aに嵌合せしめ、上記クリーナ蓋体7をクリーナ外筐1にナット11で固定する。

しかし、空気は、入口5から吸入通路6を通過して、クリーナ外筐1内に入り、フィルタ10でろ過された清浄空気は、スリット4を通過して保持筒3の内側に入つて出口2に流れる。フィルタ10は、両端部分で、保持筒3の基部とクリーナ外筐1の底及び、内板8に押し当てて、シールされると共に抜止めできる。

以上説明したように、この考案は、クリーナ外筐の内方に、出口に連なり、局面にスリットを有する円筒状の保持筒を一体的に形成し、クリーナ蓋体の内側に内板を設け、円筒状のフィルタを保持筒に挿入し、フィルタの両端を保持筒の基端外周に形成され保持筒の軸線方向先端側に開口する環状溝および内板に形成された環状溝にそれぞれ嵌挿して、上記フィルタを挟持して保持するようにしたので、フィルタの両端に添板を設ける必要がなく安価にできる。

又、フィルタの両端は挟持されてシールが保て

3

4

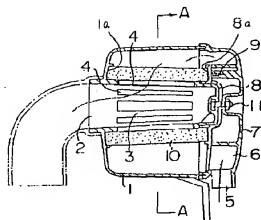
ると共に抜け外れることもない。そして、クリーナ外隆、クリーナ蓋体、内板は、何れも合成樹脂で成形できると形状で、安価にでき、部品点数も少なくて、大巾なコストダウンができる。

図面の簡単な説明

図は本考案の一実施例を示し、第1図は縦断面図、第2図は第1図A-A矢視横断面図である。

1…クリーナ外隆、2…出口、3…保持筒、4…スリット、7…クリーナ蓋体、8…内板、10…フィルタ。

第 1 図



第 2 図

